



Agent for Virtual Machines に関する一般的なご質問

※仮想マシンに関連する用語については、ライセンスガイド 3-1.の「略称の使用について」をご覧ください。

※各プラットフォームの対応状況については、動作要件

(<http://www.casupport.jp/resources/bab125win/sysreq.htm>)でご確認ください。

Q1. 仮想環境で Agent for Virtual Machines を導入する場合、ライセンスの数はどのように数えればよいのでしょうか？

A 仮想環境で導入する際の Agent for Virtual Machines ライセンス対象は、VCB プロキシサーバ、Hyper-V サーバ、およびバックアップ対象の仮想マシンです。ライセンス対象を合計した数が必要なライセンス数となります。例えば、VMware 環境で、VCB プロキシサーバが 1 台、VMware ESX サーバ上に 3 つの仮想マシンが稼働している場合は、Agent for Virtual Machines 4 ライセンスが必要になります。

Q2. Agent for Virtual Machines は、仮想環境ごとに違うエージェント製品が用意されているのですか？

A いいえ、1つだけです。ARCserve Backup が対応している仮想環境(詳細は動作要件 <http://www.casupport.jp/resources/bab125win/sysreq.htm> で確認ください)すべてで、この Agent for Virtual Machines をお使いいただくことができます。

Q3. Agent for Virtual Machines のライセンス構成、およびインストール先を決定する上で参考になる要素はありますか？

A Agent for Virtual Machines のライセンス構成、インストール先を決定するには、どのような「バックアップ モード」でバックアップを行うかを考慮いただきます。ARCserve Backup r12.5 では、3 つのバックアップモードを提供しています。

- ファイルモード:
仮想マシンのデータを個別のファイルおよびディレクトリとしてバックアップします。ファイル モードバックアップでは、ファイル レベルで仮想マシンのバックアップ データをリストアできます。
- raw モード:
仮想マシンのデータのフル イメージをバックアップします。rawモードを使用すると、データ全体をリストアできます。
- 混在モード:
データのフル バックアップをrawモードで実行し、増分および差分バックアップをファイル モードで実行します。混在モード バックアップでは、スケジュールされたバックアップおよび GFS ローテーション バックアップを実行できます。混在モードがデフォルトのバックアップモードです。

また、「ファイルレベル リストアを許可する」をチェックすることで、rawモード、または混在モードでバックアップしたデータをファイルレベルでリストアできます。

Q4. Agent for Virtual Machines のライセンス構成、インストール先決定の上で、バックアップモードが重要とのことですが、具体的にはどのように考えればよいのでしょうか？

A 「バックアップ モード」のうち、ファイルモード(混在モードを含みます)と raw モードで、Agent for Virtual Machines のインストール先が以下の通り変わります。

仮想環境	実行するバックアップ モード	Agent for Virtual Machines のインストール先
VMware 環境 (VCB プロキシサーバ使用)	ファイルモード	VCB プロキシサーバとバックアップ対象の各仮想マシン
	raw モード	VCB プロキシサーバのみ
Hyper-V 環境	ファイルモード	Hyper-V サーバとバックアップ対象の各仮想マシン
	raw モード	Hyper-V サーバのみ



Q5. 仮想環境で、Agent for Virtual Machines を使って物理環境同様にバックアップを実行することはできるのでしょうか？

A はい、可能です。仮想環境で物理環境同様に Windows 仮想マシンのバックアップを行う場合は、バックアップ対象の各仮想マシンに Agent for Virtual Machines をインストールします。仮想マシンが Linux の場合は、Agent for Virtual Machines に同梱されている Client Agent for Linux をバックアップ対象の各 Linux 仮想マシンにインストールします。

Q6. **Updated!** ARCserve Backup r12.5で仮想環境のバックアップを実行する場合、専用のエージェントであるAgent for Virtual Machinesか、Client Agent のどちらが適切でしょうか？

A 仮想環境でご使用いただく場合は、仮想マシン全体のイメージ バックアップや専用の復旧メニューを利用できる Agent for Virtual Machines をご購入ください。以前からご使用で、r12.5 にバージョンアップされた Client Agent も継続使用できますが、Agent for Virtual Machines をご使用いただくことをお勧めします。

Q7. フルバックアップからファイルレベルのリストアを実行する場合、対象となる各仮想マシンには Agent for Virtual Machines に加えて、別途 Client Agent が必要でしょうか？

A いいえ。Agent for Virtual Machines には、Client Agent が含まれていますので、別途ライセンスの必要はありません。

Q8. Agent for Virtual Machines ライセンスはどこに登録すればよいのでしょうか？

A Agent for Virtual Machines ライセンスは、バックアップサーバ(スタンドアロン環境では、スタンドアロンサーバに、ドメイン環境ではプライマリサーバ)上で管理されます。Agent for Open Files を利用する場合、この Agent for Open Files 機能をインストールしたマシンに登録することだけが唯一の例外です。

Q9. **Updated!** 仮想マシンが Windows 7、Windows XP や Windows Vista のようなクライアント OS で、Client Agent を使用して物理マシンと同様にバックアップを実行する場合、Client Agent をライセンスする必要がありますか？ 同様に仮想マシンがクライアント OS で、VCB 機能を利用してバックアップを行う場合は、Agent for Virtual Machines をライセンスする必要がありますか？

A 仮想マシンがクライアント OS で物理マシン同様にバックアップを行う場合は、従来と同様にベース製品に含まれる Client Agent を利用することができますので、別途ライセンスの必要はありません。しかし、クライアント OS であっても、仮想マシンを raw モードで保護する等、Agent for Virtual Machines の機能を利用する場合にはライセンスが必要です。このように Agent for Virtual Machines を使って仮想マシンを raw モード バックアップすることで、クライアント OS でも簡単に惨事復旧することができます。

Hyper-V 環境に関するご質問

Q10. Hyper-V の仮想環境で、仮想マシンをバックアップするためには Hyper-V サーバに対しても Agent for Virtual Machines のライセンスが必要ですが、このライセンスで、Hyper-V サーバのフルバックアップが可能でしょうか？

A はい、Agent for Virtual Machines に含まれる Client Agent または、Agent for Open File for Virtual Machines を使用してフルバックアップが可能です。別途 Client Agent や Agent for Open Files のライセンスを購入する必要はありません。



VMware 環境に関するご質問

Q11. VMware 環境で仮想マシンに Microsoft Exchange が稼働しており、ドキュメントレベルのバックアップと VCB プロキシサーバを経由して仮想マシンを raw モードでバックアップを行う場合、どのライセンスが必要でしょうか？

A Agent for Microsoft Exchange Server ライセンス 1 つと、VCB プロキシサーバと対象の仮想マシンに 2 つの Agent for Virtual Machines をライセンスする必要があります。しかし、Agent for Virtual Machines は VCB プロキシサーバにのみインストールします。

Q12. VMware 環境で、VMware ESX サーバに対して Agent for Virtual Machine のライセンスは必要でしょうか？

A いいえ。VMware ESX サーバには、Agent for Virtual Machines をライセンスする必要はありません。VCB プロキシサーバとバックアップ対象の各仮想マシンに Agent for Virtual Machine をライセンスします。しかし、ホストマシンである VMware ESX サーバも保護する場合には、Client Agent for Linux ライセンスが必要です。

Q13. VMware 環境で、バックアップサーバが VCB プロキシサーバを兼ねている場合、VCB プロキシサーバに Agent for Virtual Machines が必要でしょうか？

A はい、この場合、ARCserve Backup ベース製品のライセンスに加えて、Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

Q14. Agent for Virtual Machines は、VMware vSphere 4 に対応していますか？その場合、必要となるエージェントはこれまで同様に Agent for Virtual Machines でよいのでしょうか？

A 対応しています。(※パッチ RO07336 の適用が必要です。「ダウンロード一覧」
<http://www.casupport.jp/resources/bab125win/download/> で確認ください。) 必要なエージェントは Agent for Virtual Machines です。VCB に変えて、VDDK をお使いの場合は、VDDK がインストールされているサーバに Agent for Virtual Machines をライセンスいただきます。加えてこれまで同様に VMware 環境でバックアップ対象となる仮想マシンの数分ライセンスが必要です。

Q15. VMware vSphere 4 で、VCB プロキシサーバと VDDK が混在している場合、Agent for Virtual Machines のライセンスはいくつ必要でしょうか？

A VCB プロキシサーバと VDDK がインストールされたサーバが同一の場合、必要な Agent for Virtual Machines のライセンスは1つです。VCB と VDDK がインストールされたサーバが別の場合は、それぞれの数分、Agent for Virtual Machines ライセンスが必要です。加えてこれまで同様に VMware 環境でバックアップ対象となる仮想マシンの数分ライセンスが必要です。

Q16. VCB プロキシ サーバ(もしくはVDDKがインストールされたサーバ)に導入したAgent for Virtual Machinesライセンスに付属するAgent for Open File for Virtual Machinesを利用して、当該サーバ上のシステムや一般データのオープンファイルをバックアップできますか？

A 可能です。VCB プロキシ サーバ (もしくはVDDKがインストールされたサーバ)でも、VCB プロキシ サーバ (もしくはVDDKがインストールされたサーバ)とバックアップサーバを同一サーバとする構成でも、Agent for Open File for Virtual Machinesを利用できます。



移行に関するご質問

Q17. ARCserve Backup r12.5 で、Agent for Virtual Machines をライセンスして VMware 環境を保護していますが、Microsoft Hyper-V 環境に移行する計画をしています。この場合、新たにライセンスし直す必要がありますか？

A いいえ。Agent for Virtual Machines は、VMware 環境でも Hyper-V 環境でも使用することができますので、新たにライセンスし直す必要はありません。ただし、移行後の環境でバックアップ対象が増える場合は、追加で Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

Q18. 物理サーバに r12.5 の Client Agent と Agent for Open Files をインストールしていて、仮想環境への移行を計画しています。Agent for Virtual Machines を新たにライセンスする必要がありますか？

A はい。新たに Agent for Virtual Machines をライセンスする必要がありますが、アップグレード価格をご利用いただくことができます。